### はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭 1 和 5 0年7月から実施しているものです。四半期 2 ごとに調査を行い、D.I.を中心として分析を行っ 3 ています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を 行い、次の8業種を選定しております。

- 縫製業
- ② 電子部品·半導体製造業
- ③ 漆器業
- 4) 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、令和2年10月~12月期の業況実績と、令和3年1月~3月期の見通しについて、管内679先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立てていただければ幸 いです。

#### ※D.I. (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加(上昇)したとする企業と、減少(下降)したとする企業の全体に占め 6 る構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

#### \* \* \* \* 目次 \* \* \* \*

1		概		況	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
2		地	[区	内	0)	業	況	D	. I		推	移	•	•	•	•	•	•	2
3		_	般	業	種	0)	業	況											
	(1	)	製	造	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
	(2	2)	卸	売	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
	(3	()	小	売	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5
	(4	.)	サ	_	ビ	ス	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
	(5	<u>(</u>	建	設	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	7
	(6	(	不	動	産	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	8
4		地	場	産	業	の	業	況											
	(1	)	能	登	地	区	の	縫	製	業	•		•	•	•	•	•	•	9
	(2	2)	能	登	地	区	0)	電	子	部	品								
						•	半	:導	体	製	造	業	•	•	•	•	•	•	10
	(3	3)	能	登	地	区	0	漆	器	業	•	•	•	•	•	•	•	•	11
	(4	(	能	登	地	区	0)	木	材	業	•	•	•	•	•	•	•	•	12
	(5	(	能	登	地	区	0	建	具	業	•	•	•	•	•	•	•	•	13
	(6	(	能	登	地	区	0	織	布	業	•	•	•	•	•	•	•	•	14
	(7	")	能	登	地	区	0)	繊	維	•	雑	品	業	•	•	•	•	•	15
	(8	3)	能	登	地	区	0	観	光	業	•	•	•	•	•	•	•	•	16
5		経	済	指	標	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	17	~18
6		特	别	調	査														
				2	0	2	1	年	(	令	和	3 :	年	) (	の;	径	営	見通	!
			し	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	19

(注)令和2年10月 $\sim$ 12月を今期、令和2年7月 $\sim$ 9月を前期、令和3年1月 $\sim$ 3月を来期という、以下同じ。

### 調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率(%)	構成比(%)
製 造 業	203	192	94.6	30.5
卸 売 業	2 9	2 8	96.6	4. 4
小 売 業	200	184	92.0	29.2
サービス業	1 2 0	1 1 4	95.0	18.1
建設業	9 7	8 6	88.7	13.7
不動産業	2 9	2 6	89.7	4. 1
合 計	6 7 8	6 3 0	92.9	100.0

### ◇◆◇ 概 況 ◇◆◇

《 2020年10月~12月》

昨年より新型コロナウイルスの感染は世界規模で広がり続けており、政府は緊急事態宣言を発出したが、収束に向かってはいない。感染拡大を防ぐための時短営業や不要不急の外出自粛を呼びかけたが、抑制の決定打にはならず、コロナ罹患者の多い都市はコロナ患者の受入病床数も限界に近づいてきている。現段階でアメリカのファイザー社にコロナワクチンを申請しており、日本で認可を受けた後に提供を受け、医療従事者や高齢者等優先度の高い順から接種していく予定である。しかし、実際のワクチン接種にかかる人手の確保や会場の確保、ワクチンを保管するための超低温冷凍庫の配備、更に接種に必要なクーポンの送付、自治体や関係各所の負担など、解決しなければならない問題は山積している。

このような状況下で、当金庫営業地区の今期(令和2年10月~12月)業況D.I.は、 △39.4(前期△51.1)と改善を示した。地区内全般では木材や青果物の需要が増 えた卸売業やクリスマスや年末年始の売上増加要因のあった小売業など、不動産業以外の すべての業種で業況D.I.は改善した。不動産業は住宅展示場への来客減やフェアの中止等 の影響で業況は悪化した。

地場産業では、縫製業で医療用ガウンやマスクなどの医療向けが堅調に推移し、織布業では車のタイミングベルト裏地の受注が順調であった。漆器業は Go To トラベル等の効果で改善し、木材業、建具業、観光業も業況 D. I. の改善がみられた。電子・半導体製造業、繊維・雑品業は横這い。Go To キャンペーンや年末の個人消費意欲の上昇や北陸新幹線関連工事などが改善を促し、全体的に改善した。コロナ禍の中、それぞれの業種・企業が解決方法を模索しながら必死に努力を続けてきた結果といえる。

来期(令和3年1月~3月)の地区内における業況D.I.は△41.4と横這いを予想。 不動産業は人の移動がある時期であることから改善に転じると見ており、製造業、建設業は横這い。卸売業を含めたその他の業種は悪化を予想している。また地場産業において木材業は引き続き改善を維持し、繊維・雑品業はやや改善すると予想。漆器業、織布業と観光業は若干の悪化を予想し、その他の業種は横這いを予想している。

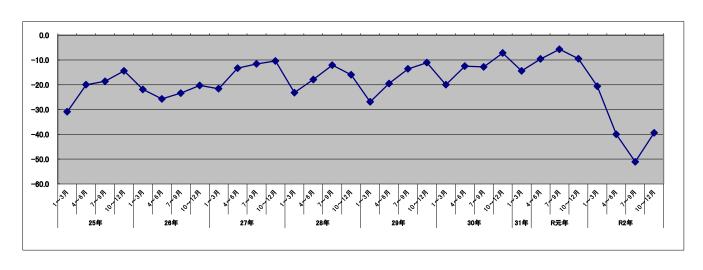
昨年末の緊急事態宣言の発出により、Go Toトラベルが停止となったことや、時短営業や不要不急の外出自粛呼びかけにより今後更に飲食業やサービス業の冷え込みが予想される。また世界的に半導体需要が高まっているが、需給の逼迫から日本の自動車メーカーが煽りを受け、生産調整や減産を余儀なくされている。それらにより連鎖的に悪影響を及ぼすのではないかとの懸念がある。

現在、経済産業省が窓口となっている持続化給付金や、日本政策金融公庫が取り扱う新型コロナウイルス感染症特別貸付制度等を利用して急場を凌いでいる企業は多く、経済の循環が再び軌道に乗るまで体力が持つかが今後の焦点となる。

企業の未来を守り、国を守るための施策が必要とされている。

### 「 地区内の業況 D. I. 推移」

年	期間	業況D. I.	年	期間	業況D. I.
	1~3月	△ 30.9		1~3月	△ 26.9
H25 <b>年</b>	4~6月	△ 20.0	H29年	4~6月	△ 19.5
nz3 <del>-4-</del>	7~9月	△ 18.6	пиэ	7~9月	<b>△</b> 13.6
	10~12月	△ 14.4		10~12月	Δ 11.1
	1~3月	<b>△</b> 21.9		1~3月	<b>△</b> 20.0
H26年	4~6月	△ 25.7	H30 <b>年</b>	4~6月	<b>△</b> 12.5
1120-4-	7~9月	△ 23.4	1100-4-	7~9月	<b>△</b> 12.8
	10~12月	<b>△</b> 20. 3		10~12月	△ 7.2
	1~3月	<b>△ 21.6</b>	H31年	1~3月	<b>△</b> 14.4
H27年	4~6月	△ 13.3		4~6月	<b>△</b> 9.6
1121-4-	7~9月	<b>△</b> 11.6	R元年	7~9月	△ 5.7
	10~12月	<b>△</b> 10. 4		10~12月	△ 9.5
	1~3月	△ 23. 2		1~3月	<b>△</b> 20.6
H28 <b>年</b>	4~6月	△ 17.9	R2 <b>年</b>	4~6月	<b>△</b> 40.0
1120-4-	7~9月	△ 12.1	n <b>∠-</b> +-	7~9月	△ 51.1
	10~12月	<b>△</b> 16.0		10~12月	△ 39.4



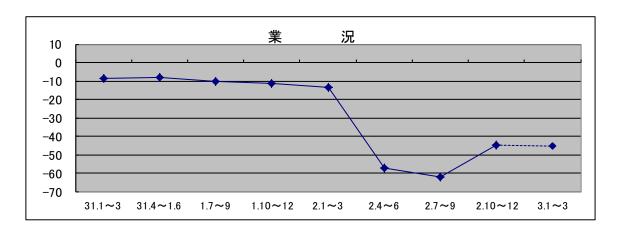












今期 (R 2.1 0月~1 2月) の業況 D. I. は前期より持ち直し、 $\triangle$  4 4. 8 (前期  $\triangle$  6 2. 1) となった。

全体的に売上と収益について改善したとの回答が多く、受注はやや増加し、業況・ 売上・収益は改善しているが、新型コロナウイルスの第三波の影響により、コロ ナ以前の水準には至らなかった。先行きの不透明さから設備状況が不足していて も、投資を見合わせている企業が多い。

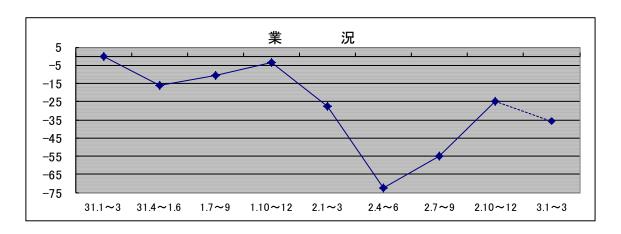
来期(R 3.1月~3月)の業況 D.I.は $\triangle$ 45.3とほぼ横這いを予測している。

					14 124 13 141 .		"			
			平成 31 年	(令和1年)			令和	2年		見通し
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	△8. 7	△8.2	△10. 4	△11. 3	△13. 7	△57. 4	△62. 1	△44. 8	△45. 3
売	上	△12.8	△4.1	△5. 2	△3. 6	△15.8	△61. 6	△40. 5	△18.8	△21. 4
収	益	△12. 2	△4.6	△7.8	△8.8	△16. 3	△59. 5	△38. 9	△20.8	△21. 4
資金	繰り	△2. 6	△2.0	△9.8	△11. 3	△8. 4	△37. 4	△19. 5	△14. 6	△11. 5
販売	価格	△11.8	△11.2	△11. 9	△8. 2	△6.8	△2. 1	1. 6	△6.8	△3. 1
在	庫	△4. 1	△6. 6	△6. 2	△5. 2	△3. 7	△5. 3	△4. 7	△2. 1	△3. 6

《業績判断 D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイ	ント)
売上の停滞・減少	26.4%	提携先を見つける	34.1%
輸入製品との競争の激化	19.7%	販路を広げる	20.9%
同業者間の競争の激化	9.2%	経費を節減する	19.2%





今期(R 2.1 0月~1 2月)業況D.I.は年末の消費意欲が高まる要因により、 $\triangle$  2 5.0 (前期 $\triangle$  5 5.2) と改善した。しかしコロナウイルス第三波による時短営業やそれによる収入減少で支出を抑える傾向から例年に比べると個人消費は低迷している。

木材や青果物は前期に比べて需要があり、衣料品や海産物などは個人消費の低下が続いたため状況は厳しいとの回答、卸売業の約半数は横這いとの回答であり、同じ卸売業でも取扱商品によって業況に差がある。

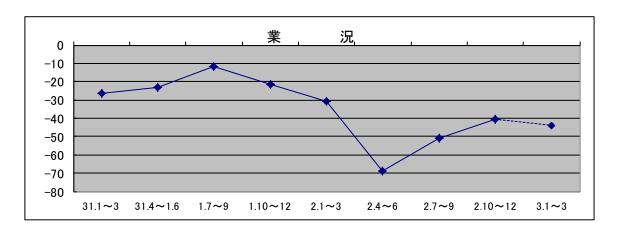
来期(R3.1月~3月)の卸売業全体の見通しは、△35.7と悪化し、売上・収益も悪化する厳しい状況を予想している。

			平成 31 年	(令和1年)			令和	12年		見通し
		1~3月	4~6 月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	0.0	△16. 1	△10. 7	△3. 4	△27. 6	△72.4	△55 <b>.</b> 2	△25. 0	△35. 7
売	上	△3. 3	△12.9	△21. 4	△3. 4	△27. 6	△65. 5	△51. 7	△17. 9	△39. 3
収	益	△10.0	△19. 4	△17. 9	0.0	△27. 6	△65. 5	△48. 3	△14. 3	△39. 3
資金繰	り	△6. 7	△9. 7	△14. 3	△6. 9	△6. 9	△51. 7	△24. 1	△21. 4	△14. 3
販売価	格	6. 7	△3. 2	0.0	3. 4	6. 9	0.0	△3. 4	△21. 4	△0.0
在	庫	0.0	△3. 2	3.6	3. 4	0.0	△3. 4	△6. 9	△10. 7	△17. 9

《業績判断 D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)				
売上の停滞・減少	19.0%	提携先を見つける	31.2%			
合理化の不足	19.0%	販路を広げる	20.8%			
同業者間の競争の激化	13.8%	経費を節減する	19.5%			





今期(R 2.1 0月~1 2月)の業況D.I.は $\triangle$ 4 0.8(前期 $\triangle$ 5 1.1)と前期の見通し予想( $\triangle$ 4 9.5)以上の改善を示した。クリスマスや年末年始を迎え、消費意欲が高まる時期であり業況は改善されてきているとの回答が多かったが、コロナ禍以前の水準には届かなかった。

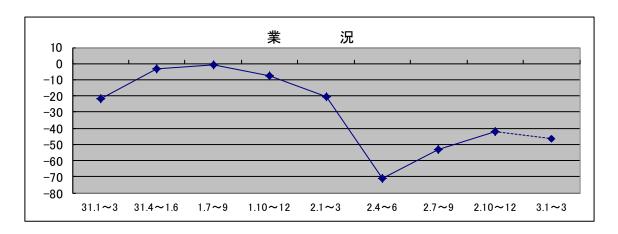
来期(R3.1月~3月)業況D.I.については $\triangle$ 44.0と悪化を予想、新型コロナウイルスの先行きに対する不安と経済要因により予断を許さない状況が続く。

《業績判断 D.I.の推移》

			平成 31 年	(令和1年)			令和	12年		見通し
		1~3月	4~6 月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	△26. 4	△22.9	△11.6	△21. 5	△30. 5	△69. 1	△51. 1	△40.8	△44. 0
売	上	△16. 1	△15. 4	△2. 1	△16. 9	△27. 8	△63. 9	△25. 5	△30. 4	△38. 0
収	益	△16. 6	△15. 4	△2.6	△16. 9	△27. 3	△63. 9	△23. 4	△29. 9	△38. 0
資金網	繰り	△16. 6	△12.9	△11. 1	△7. 7	△14. 4	△25. 1	△12. 0	△8. 7	△11. 4
販売	価格	△1. 6	4.0	0.0	11.8	△4. 3	△9. 9	△0.5	△12. 5	△0. 0
在	庫	5. 2	1.0	5.8	2. 6	4. 3	3. 7	1.6	△4. 3	△2. 2

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイ	ント)
売上の停滞・減少	20.3%	仕入先を開拓・選別する	33.6%
地価の高騰	16.7%	経費を節減する	23.0%
商圏人口の減少	13.8%	品揃えを改善する	12.9%





今期(R 2.10~12月)業況D.I.は $\triangle$ 42.1(前期 $\triangle$ 53.4)とGo Toトラベルが改善を促した。

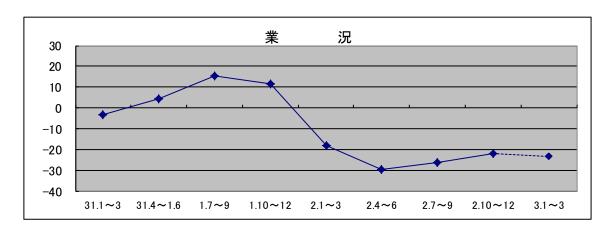
徹底した感染対策をとり開催するイベントも少しずつ増えてきたが、依然感染拡大防止のため大多数の行事や催事の中止・自粛は続いており、コロナウイルスの収束時期が不明であることや年末の緊急事態宣言発出により、現在  $Go\ To\$ トラベルはキャンペーンを停止していることから、来期( $R\ 2.1\$ 0月~ $1\ 2$ 月)業況D.I.は $\Delta\ 4\ 6.\ 5$ と悪化の推移を予想している。

《業績判断 D.I.の推移》

			平成 31 年	(令和1年)			令和	12年		見通し
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	△21. 7	△3.4	△1.0	△7.8	△20. 5	△71. 2	△53. 4	△42. 1	△46. 5
売	十	△20.8	△4.2	△2.0	△9. 5	△23. 9	△70. 3	△35. 3	△32. 5	△35. 1
収	益	△19. 3	△5.9	△3. 0	△11. 2	△23. 9	△68. 5	△34. 5	△31. 6	△35. 1
資金	繰り	△13. 3	△13.6	△6. 9	△10. 3	△16. 2	△39. 6	△20. 7	△17. 5	△15.8
販売	価格	0.0	5. 9	2.0	5. 2	1. 7	△6. 3	△1. 7	△0.0	△0.0
在	庫	△8. 3	△5. 1	△5. 9	△5. 2	△3. 4	△1.8	△1. 7	△1.8	△1.8

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイ	ント)
売上の停滞・減少	21.1%	提携先を見つける	32.7%
利幅の縮小	20.8%	経費を節減する	19.9%
同業者間の競争の激化	14.6%	宣伝・広告を強化する	15.7%





前期において今期 (R 2.1 0月~1 2月) の業況 D.I. は悪化するとの予想をしたが、前期に続いて北陸新幹線関連工事や、公共工事に動きがあったことで $\triangle$  2 2.1 (前期 $\triangle$  2 6.5) と改善を示した。しかし民間工事や一般住宅の建設は低迷しており、民間需要を伸ばす施策が求められている。

前回と今回の当面の重点施策は順位・割合ともにほぼ変わりなかったが、経営上の問題点は「売上の停滞・減少」に代わり、「同業者間の競争の激化」が一位になっており、パイの取り合いが激しくなっていることが伺われる。

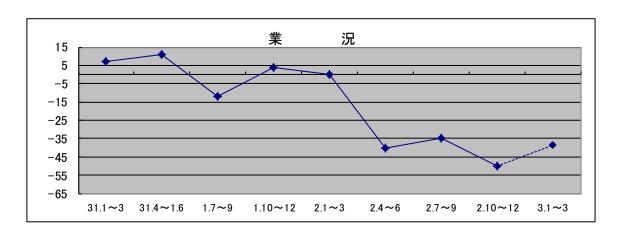
来期(R3.1月~3月)の業況D.I.は△23.3と横這いを予想している。

			平成 31 年	(令和1年)			令和	12年		見通し
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	△3. 2	4. 2	15. 4	11. 7	△18. 2	△29. 9	△26. 5	△22. 1	△23. 3
売	上	△10.8	6. 3	15. 4	13.8	△20. 5	△46. 0	△15. 7	△16. 3	△17. 4
収	益	△9. 7	2. 1	9.9	10.6	△11. 4	△43. 7	△10.8	△10. 5	△22. 1
資金	繰り	0.0	2. 1	△2. 2	2. 1	△13. 6	△24. 1	△6. 0	△10. 5	△11. 6
販売	価格	6. 5	△4.2	1. 1	11. 7	△4. 5	△19. 5	△3. 6	△9. 3	△14. 0
在	庫	△11.8	△23. 2	△22.0	△25. 5	△12. 5	△11.5	△7. 2	△3. 5	△3. 5

《業績判断 D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
同業者間の競争の激化	20.6%	技術力を高める	31.0%	
売上の停滞・減少	15.6%	経費を節減する	20.2%	
人手不足	10.1%	販路を広げる	12.1%	

# 不動産業



### 【概 況】

今期(R 2.10月~12月)の業況D.I.は $\triangle$ 50.0(前期34.6)と悪化を示した。販売価格はやや持ち直したが、売上・収益は横這いで、戸建ての新築物件などの高値の物が売れない状況や賃貸物件の稼働率の低下が続いていることから資金繰りは悪化し、業況は悪化したとの回答が前期より増えた結果となった。

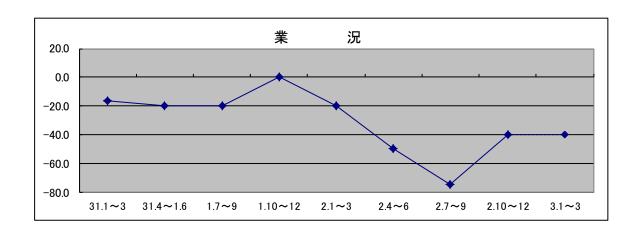
来期(R 3.1 月~3 月)は年度の変わり目を迎え、入学や新社会人などの人の移動があることから業況 D. I. は $\triangle$  3 8. 5 と改善を予想している。

《業績判断 D.I.の推移》

		平成31年(令和1年)						見通し		
		1~3月	4~6 月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	7. 1	11. 1	△12. 2	3. 7	0.0	△40.0	△34. 6	△50. 0	△38. 5
売	上	7. 1	7. 4	△4.9	3. 7	3.8	△36. 0	△34. 6	△34. 6	△15. 4
収	益	3. 6	7. 4	△7. 3	3. 7	3.8	△36. 0	△34. 6	△34. 6	△19. 2
資金	繰り	△14. 3	3. 7	△7. 3	3. 7	△7. 7	△24. 0	△7. 7	△19. 2	△11.5
販売	価格	3. 6	14.8	9.8	11. 1	3.8	△4. 0	△19. 2	△7. 7	△11.5
在	庫	△18. 5	0.0	2.4	△3. 7	0.0	△8.0	△3.8	△3.8	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
売上の停滞・減少	32.1%	経費を節減する	19.4%	
同業者間の競争の激化	32.1%	提携先を見つける	19.4%	
大手企業との競争の激化	17.9%	宣伝・広告を強化する	16.1%	

## 能登地区の縫製業



### 【概 況】

今期(R 2.1 0月~1 2月)の業況 D. I. は例年ほどではないが、繁忙期であることが後押しして $\triangle$ 4 0.0 と前期(R 2.7月~9月)の $\triangle$ 7 5.0 より改善し、業況・売上・収益・資金繰り・人手・設備全ての項目が改善した。暖冬による冬物の不振やコロナによる影響で春物の在庫を抱えている状況で、コロナウイルス感染拡大以降、国から要請があったこともあり、医療用ガウンやマスクなどの医療用製品の高まった需要に応えるべくファッション以外の事業を強化するメーカーが出てきている。その流れの中で改善を実感している企業が徐々に増えてきている。

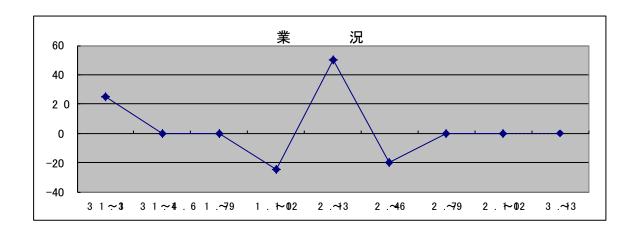
来期(R 3.1月~3月)は未だコロナウイルスの第三波が到来している最中の不安定な状況から見通しは売上・収益ともに悪化、業況D.I.は横這いの見通しである。

《業績判断D	I	. ග	推	移	<b>»</b>

			平成 31 年	(令和1年)				見通し		
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	△16. 7	△20.0	△20.0	0.0	△20.0	△50. 0	△75. 0	△40.0	△40.0
売	上	0.0	0.0	△40. 0	20. 0	△20. 0	△75. 0	△25. 0	20.0	0.0
収	益	0.0	△20.0	△40.0	0.0	△20.0	△75. 0	△25. 0	0.0	△20.0
資金	繰り	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0	△25. 0	△25. 0	0.0	0.0
人	手	△33. 3	△20. 0	△20. 0	0.0	△20. 0	0.0	△25. 0	0.0	20.0
設	備	0.0	0.0	0.0	0.0	△20.0	△25. 0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
輸入製品との競争の激化	38.5%	提携先を見つける	28.6%	
売上の停滞・減少	30.8%	経費を節減する	21.4%	
人手不足	7.7%	情報力を強化する	21.4%	

### 能登地区の電子部品・半導体製造業



### 【概 況】

今期(R 2.10月~12月)業況D.I.については0.0と前期と同値で横這い。 売上・収益については前期に比べて上昇した。理由として、海外とくに中国から調達されるハーネス等部品供給の輸入が停止し、国内供給の需要が高まったことが挙げられる。

来期 (R3.1月~3月)、業況 D. I. と人手については横這い、資金繰りは改善すると予想している。しかし今回の特需は安定的なものではなく、国外からの輸入が再開されれば需要は下がるものであり、今後の動向について注視が必要である。

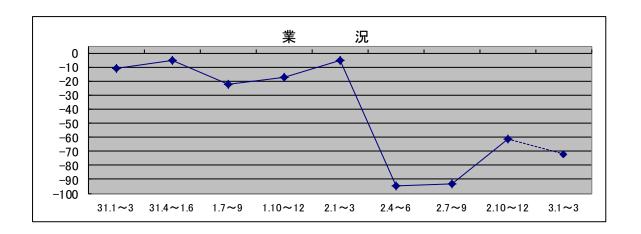
世界的に電子端末の製造や通信基地局の設置等で半導体需要が高まっているが、需給が逼迫し日本の自動車メーカーがあおりを受けて半導体搭載部品の安定調達が立ち行かなくなり、自動車の生産調整や減産を余儀なくされ始めている。連鎖的な悪影響が懸念されるため、早期の解消が求められる。

	平成31年(令和1年)						令和	2年		見通し
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	25. 0	0.0	0.0	△25. 0	50.0	△20. 0	0.0	0.0	0.0
売	上	0.0	△33. 3	△100.0	25. 0	50.0	△20. 0	0.0	40.0	0.0
収	益	25. 0	0.0	△100. 0	0.0	50.0	△40. 0	0.0	40.0	20.0
資金	繰り	0.0	0.0	△50. 0	△25. 0	0.0	△40. 0	△33. 3	0.0	20.0
人	手	0.0	0.0	0.0	25. 0	△50. 0	△20. 0	0.0	△20. 0	△20. 0
設	備	0.0	0.0	0.0	△25. 0	0.0	0.0	△33. 3	0.0	0.0

《業績判断 D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
輸入製品との競争の激化	23.1%	提携先を見つける	33.3%	
売上の停滞・減少	15.4%	経費を節減する	22.2%	
人件費の増加	15.4%	販路を広げる	11.1%	

### 能登地区の漆器業



### 【概 況】

今期業況 D.I.は「Go To トラベル」等の効果により、人の動きが戻ってきたことで  $\Delta 61.1$ (前期  $\Delta 93.3$ )と改善。しかし海外観光客の入国制限が続いていることから、コロナ禍以前の水準までは持ち直しておらず業況は厳しい。

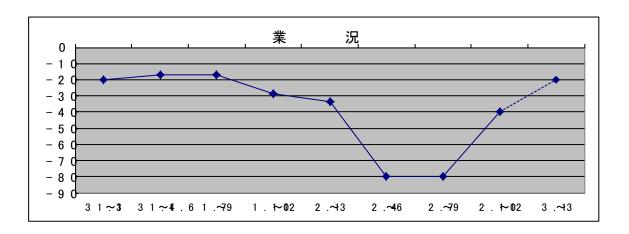
来期(R3.1月~3月)は停止になっている「Go Toトラベル」の再開が未定であることやコロナウイルス感染症の影響により各種イベント・催事の中止が予想されることから業況 D.I.をはじめすべての項目でやや悪化もしくは現状維持の厳しい水準で推移するものと予想している。

《業績判断 D.I.の推移》

	平成31年(令和1年)						見通し			
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	△5. 6	△22. 2	△17. 6	△5. 6	△5. 6	△94. 4	△93. 3	△61. 1	△72. 7
売	上	△5. 6	△5. 6	0.0	△5. 6	△5. 6	△88. 9	△46. 7	△33. 3	△50. 0
収	益	0.0	△11. 1	0.0	△5. 6	△5. 6	△88, 9	△53. 3	△33. 3	△44. 4
資金	繰り	△5. 6	△38. 9	0.0	△11. 1	△11. 1	△61. 1	△20. 0	△38. 9	△22. 2
人	手	△11.1	△11. 1	0.0	5. 6	5. 6	5. 6	0.0	0.0	0.0
設	備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5. 6	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
売上の停滞・減少	25.6%	提携先を見つける	26.1%	
輸入製品との競争の激化	18.6%	販路を広げる	23.9%	
原材料高	16.3%	情報力を強化する	21.7%	

## 能登地区の木材業



### 【概 況】

今期(R 2.1 0月~1 2月)業況 D. I. は $\triangle$  4 0. 0 と前回の $\triangle$  8 0. 0 に比べ大幅に改善した。今期売上額・収益・販売価格・仕入価格はともに前期比較で改善しており、来期売上・収益・資金繰り・人手・設備は横這いで推移し業況 D. I. は改善すると予想している。

経営上の問題点として「売上の停滞・減少」、「輸入製品との競争の激化」が前回と同じく一位・二位となり、市場の停滞感を強く感じているとみられる。

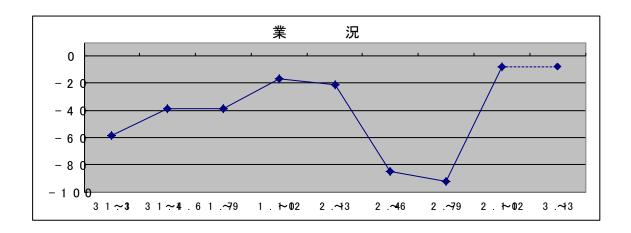
例年12月から梅雨時期まで木材価格は概ね下がる傾向にあるため、今後も動向 を注視していく。

	((木俣1)口(									
			平成 31 年	(令和1年)			令和	2年		見通し
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	△20.0	△16. 7	△16. 7	△28. 6	△33. 3	△80. 0	△80. 0	△40. 0	△20.0
売	上	△33. 3	△16. 7	0.0	△28. 6	△33. 3	△80. 0	△80. 0	△40. 0	△40. 0
収	群	△33. 3	△16. 7	0.0	△28. 6	△33. 3	△80. 0	△80. 0	△40. 0	△40. 0
資金	繰り	16. 7	△16. 7	△16. 7	△28. 6	△16. 7	△60. 0	△20. 0	△40. 0	△40. 0
人	手	△16. 7	0.0	0.0	△14. 3	0.0	△20. 0	0.0	0.0	0.0
設	備	△16. 7	△16. 7	△16. 7	0.0	△16. 7	△50. 0	0.0	0.0	0.0

《業績判断 D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
同業者間の競争の激化	37.5%	提携先を見つける	40.0%	
売上の停滞・減少	25.0%	販路を広げる	20.0%	
人手不足	12.5%	経費を節減する	20.0%	

## 能登地区の建具業



### 【概 況】

コロナ禍以前から続く建具業界の不景気がコロナウイルスの影響で悪化した中で、前期は景気改善の実感がまだ無く、悪化したとの回答が多かったが、今期は改善を実感できたとの回答が多く、業況 D. I. は改善を示した。売上・収益・資金繰りは前期に引き続き改善を示した。来期(R3.1月~3月)の予測数値は全て横這いで現状維持との見通しをしている。

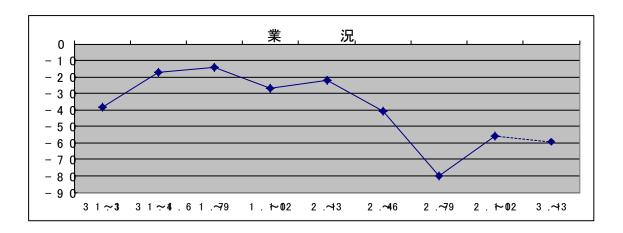
経営上の問題点として「売上の停滞・減少」、が40.6%と他の回答に比べて 比率が高く、売上の頭打ちを感じている事業者が多い結果となり、打開策として「提 携先を見つける」との回答が48.0%と多かった。

《 業 績 判 断 D . I . の 推 移 》
---------------------------

		平成 31 年(令和 1 年)			令和2年				見通し	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	△58. 3	△38. 5	△38. 5	△16. 7	△21. 4	△84. 6	△92. 3	△7. 7	△7. 7
売	上	△66. 7	△38. 5	△38. 5	△16. 7	△21. 4	△84. 6	△7. 7	0.0	0.0
収	益	△66. 7	△38. 5	△38. 5	△16. 7	△21. 4	△84. 6	△7. 7	0.0	0.0
資金	繰り	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△76. 9	△7. 7	0.0	0.0
人	手	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
設	備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
売上の停滞・減少	40.6%	提携先を見つける	48.0%	
同業者間の競争の激化	28.1%	販路を広げる	26.0%	
輸入製品との競争の激化	12.5%	経費を節減する	24.0%	

## 能登地区の織布業



### 【概 況】

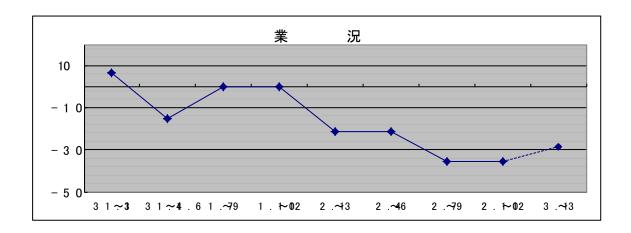
今期(R 2.10月~12月)業況D.I.は $\triangle$ 55.6(前期 $\triangle$ 80.0)と大きく改善を示した。全体でみると人手は再び不足しており、設備投資は一旦落ち着いた。来期(R 3.1月~3月)は売上・収益・資金繰りが回復基調を維持するが、業況D.I.は先行きの不透明感から悪化するとの見通しをたてている。特殊な製品に関して、例えば車のタイミングベルトの裏地などはコロナウイルスの影響をあまり受けずコンスタントに受注を伸ばしているが、織布業界全体としてはまだ好転したとは言えず、今後も動向に注視が必要である。

《業績判断 D.I.の推移》

		平成31年(令和1年)			令和2年				見通し	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6 月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	△38. 5	△17. 2	△14. 3	△26. 9	△22. 2	△40. 7	△80. 0	△55. 6	△59. 3
売	上	△38. 5	△13.8	△7. 1	△19. 2	△22. 2	△48. 1	△64. 0	△29. 6	△11. 1
収	益	△38. 5	△13.8	△7. 1	△19. 2	△18. 5	△48. 1	△60. 0	△29. 6	△11. 1
資金	繰り	△19. 2	△6. 9	△10. 7	△15. 4	△11. 1	△22. 2	△24. 0	△14.8	△7. 4
人	手	△3.8	△17. 2	△17. 9	△11. 5	△11. 1	0.0	0.0	△7. 4	△3. 7
設	備	3.8	△10. 3	△7. 1	△7. 7	△7. 4	△7. 4	△4. 0	3. 7	3. 7

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
売上の停滞・減少	21.6%	提携先を見つける	28.6%	
輸入製品との競争の激化	17.0%	販路を広げる	22.9%	
利幅の縮小	12.5%	経費を節減する	11.4%	

## 能登地区の繊維・雑品業



### 【概 況】

今期 (R 2. 10月~12月) 業況 D. I. は $\triangle$ 35.7と横這いを示し、売上と収益、人手と設備は同じく横這いの結果となり、資金繰りは改善した。

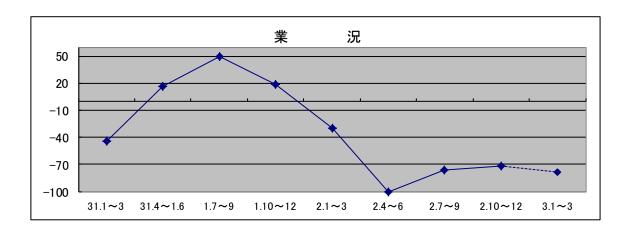
前期より一般向けの商品については厳しい状況が続いている。歳暮の時期であったことから、ギフトのラッピングに使用されるゴム入り組紐の業況はやや上向いたが、全体的な改善には繋がっていない。来期(R 3.1 月~3 月)の業況 D. I.については $\Delta$  2 8.6 と改善を予想している。

		平成31年(令和1年)			令和2年				見通し	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	6. 7	△15. 4	0.0	0.0	△21. 4	△21. 4	△35. 7	△35. 7	△28. 6
売	上	0.0	0.0	7. 7	△7. 1	△28.6	△21. 4	△21. 4	△21. 4	△14. 3
収	益	△6. 7	△7. 7	△7. 7	0.0	△21. 4	△21. 4	△21. 4	△21. 4	△7. 1
資金	繰り	△6. 7	0.0	△7. 7	△7. 1	△7.1	△7. 1	△14. 3	0.0	0.0
人	手	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7. 1	0.0	0.0	0.0
設	備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《業績判断 D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
原材料高	26.3%	提携先を見つける	33.3%	
売上の停滞・減少	15.8%	販路を広げる	24.2%	
輸入製品との競争の激化	15.8%	経費を節減する	21.2%	

## 能登地区の観光業



### 【概 況】

今期(R 2.1 0月~1 2月)は「Go To トラベル」等の追い風から業況D.I.は前期(R 2.6月~9月)の $\triangle$ 7 6. 5から $\triangle$ 7 1. 4と若干の改善となった。

しかし全国のコロナウイルス感染者の増加に伴って外出自粛ムードが広がったことやコロナウイルス第三波の影響により、売上・収益・人手は大きく悪化、設備についても悪化した。来期予想は、未だ国外観光客の入国制限が解除されておらずインバウンドが見込めないこと、「 $Go\ To\ トラベル$ 」の停止が続いていることなどの理由から、次期業況D.I.は $\Delta 78.6$ と再び悪化し、売上・収益・資金繰りも悪化するとの見通しを立てている。

《業績判	断	D		I		の	推移》	$\rangle$
------	---	---	--	---	--	---	-----	-----------

		平成 31 年 (令和 1 年)			令和2年				見通し	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業	況	△44. 4	16. 7	50.0	18.8	△29. 4	△100.0	△76. 5	△71. 4	△78. 6
売	上	△38. 9	44. 4	57. 1	△6. 2	△35. 3	△100. 0	△11.8	△57. 1	△71. 4
収	益	△29. 4	33. 3	57. 1	△6. 2	△35. 3	△100. 0	△11.8	△57. 1	△71. 4
資金	繰り	△16. 7	△22. 2	△7. 1	0.0	△35. 3	△73. 3	△29. 4	△28.6	△35. 7
人	手	0.0	5. 6	0.0	12. 5	5. 9	△13. 3	5. 9	△21. 4	△21. 4
設	備	△11.1	△11.1	△21. 4	△6. 2	△11.8	6. 7	△5. 9	△7. 1	△7. 1

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)		
利幅の縮小	28.6%	提携先を見つける	21.9%	
売上の停滞・減少	26.2%	宣伝・広告を強化する	18.8%	
同業者間の競争の激化	7.1%	経費を節減する	15.6%	

### E要経済指標

▲ 光 恁

(時間)

◆ 労働			(時間)
	有効求人倍率	実質労働時間	
	(季節調整値)		うち所定外
31年 1月	1.99	133.4	9.5
31年 2月	1.95	142.5	10.0
31年 3月	1.91	143.5	10.3
31年 4月	1.95	148.8	10.4
1年 5月	1.88	137.1	9.7
1年 6月	1.97	148.0	9.8
1年 7月	2.00	150.3	9.8
1年 8月	2.03	141.8	9.4
1年 9月	2.00	146.0	10.2
1年 10月	1.92	146.5	10.1
1年 11月	1.89	149.4	10.1
1年 12月	1.89	147.7	9.7
2年 1月	1.73	134.4	8.2
2年 2月	1.70	142.8	9.0
2年 3月	1.59	143.2	9.3
2年 4月	1.46	143.8	8.2
2年 5月	1.32	124.7	5.8
2年 6月	1.19	140.0	6.2
2年 7月	1.15	142.0	7.2
2年 8月	1.10	132.0	7.3
2年 9月	1.09	139.5	7.7
2年 10月	1.12	142.8	7.8

資料:石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

※平成28年より2015年(平成27年)を100としています。

0+0072010+1	総合	前年同月比
31年 1月	102.0	0.0
31年 2月	101.9	-0.1
31年 3月	102.5	0.6
31年 4月	102.9	1.1
1年 5月	102.9	0.8
1年 6月	102.4	0.5
1年 7月	102.3	0.3
1年 8月	102.8	0.1
1年 9月	102.7	0.2
1年 10月	103.3	0.4
1年 11月	103.2	0.7
1年 12月	103.1	0.9
2年 1月	103.0	0.9
2年 2月	102.6	0.7
2年 3月	102.7	0.2
2年 4月	102.5	-0.4
2年 5月	102.7	-0.2
2年 6月	102.7	0.3
2年 7月	102.6	0.3
2年 8月	102.6	-0.2
2年 9月	102.2	-0.4
2年 10月	102.6	-0.7
2年 11月	102.2	-1.0

資料:石川県企画開発部統計課

	(量	⊞≉	保証
$\blacksquare$		77)	不叫

◆ 信用保	証			(百万円)
	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
31年 4月	266	2,305	14,870	107,380
1年 5月	265	2,147	14,723	106,560
1年 6月	318	2,501	14,563	105,931
1年 7月	315	3,079	14,403	105,560
1年 8月	291	2,371	14,280	105,204
1年 9月	307	2,493	14,167	104,868
1年 10月	253	1,899	14,016	104,188
1年 11月	292	3,129	13,873	103,849
1年 12月	321	3,060	13,750	103,852
2年 1月	223	2,433	13,699	103,526
2年 2月	239	2,216	13,597	102,959
2年 3月	456	5,922	13,470	103,826
2年 4月	819	17,705	13,801	112,928
2年 5月	1,308	24,918	14,410	127,514
2年 6月	2,432	39,481	15,797	158,744
2年 7月	3,047	60,623	17,670	197,906
2年 8月	1,697	31,987	19,261	234,113
2年 9月	995	16,859	20,150	254,510
2年 10月	818	11,511	20,735	266,133
2年 11月	735	10,759	21,137	273,184

資料:石川県信用保証協会

◆ 企業倒産件数 (百万円) 件数 金額 31年 3月 364 5 6 31年 4月 109 1年 5月 415 1年 6月 107 9 1年 7月 281 1年 8月 6 591 8 1年 9月 417 1年 10月 5 414 1年 11月 5 601 1年 12月 3 30 2年 1月 8 1,916 2年 2月 8 910 2年 3月 4 198 2年 4月 5 471 2年 5月 4 1,635 2年 6月 644 2年 7月 10 1,210 2年 8月 3 718 2年 9月 3 89 2年 10月 4 367

6

707

資料:(株)東京商エリサーチ

2年 11月

◆ 建築着工

(壬㎡, 百万円)

▼ 建采相	<u> </u>			<u>(十m、日万円)</u>
	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
31年 1月	78	16,724	490	47
31年 2月	91	17,691	727	74
31年 3月	116	24,600	732	76
31年 4月	162	30,811	782	75
31年 5月	103	17,880	569	59
31年 6月	120	21,572	1,001	86
31年 7月	97	19,022	689	62
31年 8月	113	22,725	612	60
31年 9月	100	15,630	598	57
1年 10月	97	17,816	745	66
1年 11月	141	29,300	740	70
1年 12月	98	27,393	552	50
2年 1月	76	13,352	456	44
2年 2月	75	1,647	399	36
2年 3月	194	3,733	605	59
2年 4月	95	1,869	569	56
2年 5月	96	2,047	456	47
2年 6月	118	2,673	647	58
2年 7月	78	1,514	710	57
2年 8月	109	2,200	728	62
2年 9月	72	1,460	531	45
2年 10月	82	1,529	504	50
2年 11月	96	1,935	672	61
沓判・国土交通省(石川県内)				

◆ 公共工事請負金額 (件、百万円)

	件数	請負金額
30年12月	370	6,427
31年 1月	113	10,977
31年 2月	513	7,774
31年 3月	229	8,061
31年 4月	447	51,963
31年 5月	437	28,033
31年 6月	545	14,207
31年 7月	628	19,993
31年 8月	426	10,617
31年 9月	506	15,203
1年 10月	538	15,128
1年 11月	421	8,984
1年 12月	337	6,335
2年 1月	271	6,562
2年 2月	224	7,833
2年 3月	124	3,595
2年 4月	565	45,139
2年 5月	372	20,575
2年 6月	574	17,880
2年 7月	637	17,721
2年 8月	505	11,694
2年 9月	553	14,120
2年 10月	546	12,814
2年 11月	345	6,843

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 新車登録台数

\_\_\_\_\_\_\_<sub>(台)</sub> ◆ 温泉地宿泊数

◆ 織物生産高 (千㎡)

	业水 口 双	(   /
	普通自動車	軽自動車
30年 12月	2,573	1,361
31年 1月	2,400	1,506
31年 2月	3,547	1,905
31年 3月	5,850	2,901
31年 4月	2,511	1,570
1年 5月	2,731	1,608
1年 6月	3,271	1,780
1年 7月	3,505	1,701
1年 8月	2,563	1,601
1年 9月	3,702	2,183
1年 10月	2,037	1,322
1年 11月	2,618	1,401
1年 12月	2,412	1,201
2年 1月	2,199	1,338
2年 2月	3,132	1,818
2年 3月	4,963	2,601
2年 4月	1,657	941
2年 5月	1,611	713
2年 6月	2,244	1,465
2年 7月	2,649	1,690
2年 8月	1,918	1,383
2年 9月	3,048	1,881
2年 10月	2,661	1,581
2年 11月	2,514	1,640
<b>恣蚁. 无川</b> 周	白動車販車店	<del> </del>

資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地	(人)	
	和倉温泉	輪島温泉
31年 1月	54,447	9,200
31年 2月	60,461	9,700
31年 3月	74,459	12,100
31年 4月	58,625	13,200
1年 5月	63,596	16,700
1年 6月	60,805	13,300
1年 7月	58,182	14,100
1年 8月	92,608	20,700
1年 9月	65,094	14,600
1年 10月	67,084	15,400
1年 11月	80,191	16,800
1年 12月	67,743	11,200
2年 1月	53,477	8,800
2年 2月	53,368	10,400
2年 3月	33,444	6,600
2年 4月	5,366	1,300
2年 5月	267	2,400
2年 6月	12,897	5,300
2年 7月	46,678	9,800
2年 8月	55,528	13,700
2年 9月	40,084	11,200
2年 10月	52,385	14,300
2年 11月	64,437	16,500

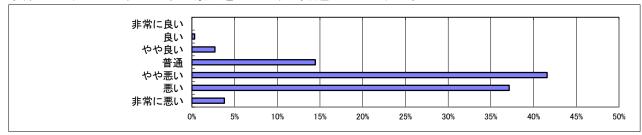
資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会 資料:石川県企画開発 輪島市観光協会

▼ 1/19X 17J <u>—</u>	<u>/</u>
	合計
30年 12月	21,010
31年 1月	21,040
31年 2月	21,580
31年 3月	23,248
31年 4月	22,002
1年 5月	22,017
1年 6月	22,592
1年 7月	23,924
1年 8月	20,338
1年 9月	22,278
1年 10月	24,547
1年 11月	22,574
1年 12月	21,202
2年 1月	19,145
2年 2月	21,066
2年 3月	20,459
2年 4月	19,164
2年 5月	16,954
2年 6月	18,402
2年 7月	17,382
2年 8月	12,208
2年 9月	13,612
2年 10月	15,859

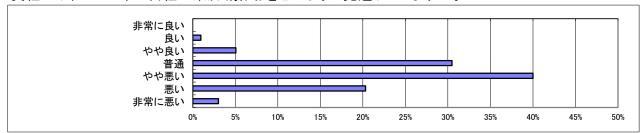
### 【 2021年 (令和3年) の経営見通し 】

特別調査

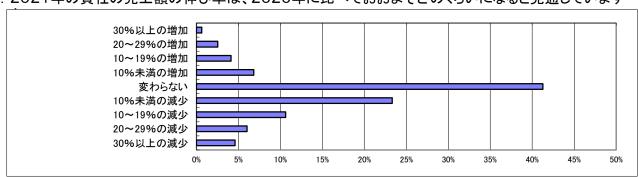
問1. 貴社では、2021年の日本の景気をどのように見通していますか。



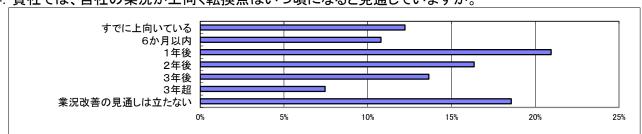
問2. 貴社では、2021年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。



問3. 2021年の貴社の売上額の伸び率は、2020年に比べておおよそどのくらいになると見通しています



問4. 貴社では、自社の業況が上向く転換点はいつ頃になると見通していますか。



問5. 現下のコロナ禍において、貴社では、資金繰り以外の事業計画・戦略等の策定・実行支援として、地域金融機関に求めることはありますか。

